# ３．10代の未遂者支援における現状、課題、今後の取組　～自殺対策関係課会議の取組報告～

資料4ー②

| | 現状 | 課題 | 現在の取組 | 今後の取組 |
|---|---|---|---|---|
| 子ども | ・気持ちに波がある。ＳＯＳを出せるときもあるが、一人の時間に思いがつまってしまうこともある。<br>・言葉、手紙、リストカット等、色々なＳＯＳの出し方がある。<br>・特性のある子どもは上手く気持ちを表現できない。<br>・友達との付き合い方がわからない、友達から言われたことを受け流すことができない。<br>・楽になる方法としてリストカット等の自傷行為を選択する。 | ・教職員や親など周囲の大人が**ＳＯＳをキャッチする力**が必要。<br>**・子どもの発達特性や思春期の子どもの気持ちを踏まえた対応**が必要。<br>**・子どもがＳＯＳを出す力を身に着け、自傷行為以外の選択肢をもつことができるよう、安心、信頼できる大人の関わりや経験**が必要。 | ・小学校や中学校でＳＯＳの出し方教育を実施<br>・教職員が子どものＳＯＳをキャッチする力や指導力、実践力等を向上するため、研修を実施 | ・ＳＯＳの出し方教育に関する学校の実情や現状の取組を踏まえて、自殺対策担当課（健康増進課）と児童生徒支援課にて課題を共有し、子どもの発達特性や思春期の子どもの気持ちを踏まえた対応についての研修など、具体的な取組を検討する。 |
| 親 | ・子どもの自傷行為について、どう対応していいかわからない。<br>・学校から子どものことで連絡があると、子育てが上手くできていないと責められたように感じる。<br>・子育て以外にも仕事や介護などを抱えている。 | ・親も子どもや自身のこと、家庭のことなど悩みを抱えており、**親を理解した支援**が必要。 | ・ケース会議やリスクアセスメント会議にて、関係機関で情報共有や役割分担し、チームで支援 | ・ケース会議やリスクアセスメント会議にて、関係機関が情報共有や役割分担を行い、子どもだけでなく家庭全体を把握し、親への必要な情報提供や助言等の支援、関係機関へのつなぎを行う。 |
| 支援者 | ・子どものＳＯＳに気づけるか不安<br>・子どもへの対応がこれでよかったのか不安<br>・医療の判断が欲しい<br>・学校が把握している情報は一部であり、家族や地域のことはわからない。（親子関係、夫婦関係、親の仕事や介護など、家庭で何が起こっているかまではわからない。）<br>・関係機関の支援内容や動きがわからないため、どんなつなぎ先があるのかわからない。 | ・多機関多職種の視点で家庭全体の状況を把握し、アセスメントし、役割分担をしながら支援できるよう、**支援者のネットワークづくりやネットワークの強化**が必要。 | ・自殺対策関係課会議、自殺対策推進会議の開催<br>・ケース会議やリスクアセスメント会議にて関係機関で情報共有や役割分担し、チームで支援<br>・ゲートキーパー養成研修の開催<br>・相談窓口リーフレットの作成、配布 | ・個別ケースを通じて、支援者の顔の見える関係づくりや関係機関との連携強化を図る。<br>・自殺対策関係課会議や自殺対策推進会議にて、関係機関がお互いの事業や取組について共有し、支援者の顔の見える関係づくりや関係機関との連携強化を図るとともに、自殺対策における課題や取組を検討する。<br>・学校と関係機関のネットワークづくりやネットワーク強化に向けて、個別支援や学校の実情や現状の取組を踏まえて、自殺対策担当課と児童生徒支援課にて、現状や課題を共有し、具体的な取組について検討する。<br>・自殺対策担当課にて未遂者支援（リスクアセスメント会議）の事業評価を行い、関係機関や支援者へフィードバックをする。 |

子どもがＳＯＳを出す力や周囲の大人がＳＯＳをキャッチする力、多機関多職種の視点で家庭全体の状況を把握することの重要性について、支援者の理解が深まることで、子どもや親支援の取組につながる。